

## ▼富士写真フイルム

### ネットワーク医用サービス

#### ▲C@Rna

富士写真フイルムは、デジタルX線画像診断システム「FCR Pico SYSTEM」に接続する医用画像ワークステーション（別売）を情報端末として、C@Rna データセンターや近隣の病院等とセキュリティに優れた高速専用回線で結ぶことで、診療所内医療業務の効率化・地域医療ネットワークづくりを支援するネットワーク医用サービス「C@Rna（カルナ）」を開発した。同サービスは、05年5月より順次開始する予定。

#### 〈特長〉

▼モニター上で解剖図や類似症例画像をFCRの検査画像と並べて表示することで、患者に的確でわかりやすい説明を行うことができる

▼連携している近隣の病院のCTやMRIなどの高度医療診断機器の予約を病院の診療時間外でも簡単にいつでも行うことができる。病院が作成した検査報告書を受け取ることも可能

▼放射線科専門医にネットワークを介してFCR検査画像の読影を依頼し、翌日に所見を受け取り参考にすることで、診断を的確なものにすることが可能

▼画像を共有しながら掲示板に書き込むことで情報を共有することができ、また、医師同士でグループを作り、その中でセキュリティを保ちながら意見交換することも可能

※問い合わせ先=富士フイルムメディカル 営業本部 ☎03・3545・3321

## ▼浜松ホトニクス

### 病理スライドスキャナ

#### ▲NDP

浜松ホトニクスは、昨年開発発表した36億画素でスキャンする技術を応用した専用機として、1枚5分と高速で読み込み、約19億画素の高い解像度のデジタルスライドを提供する病理スライドスキャナ「NDP（NanoZoomer Digital Pathology）」を発売した。

同社では、初年度に3億円/年、3年後に15億円/年の販売を目標としている。



#### 〈特長〉

▼病理用スライドは自動搬送され、顕微鏡の対物レンズで20倍相当に拡大し、CCDで約3分間高速スキャンしてデジタルスライドに変換  
▼スライドの自動搬送時間を含めて約5分でデジタルスライドがサーバーへ蓄積

▼得られる画像は、約19億画素と一般の300万画素デジタルカメラの600倍の高解像度

▼検査技師が作成したスライドを最高210枚まで同製品にセットして、パソコン画面を操作するだけで、あとは自動で変換されるため、夕方セットしておけば、夜間に次々とデジタルスライドをサーバーに取り込み蓄積することができる

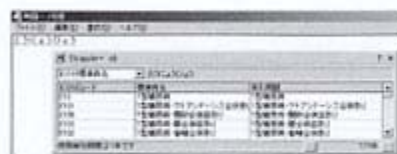
※問い合わせ先=浜松ホトニクスシステム技術部 ☎053・435・1560

## ▼アイティーコーディネート

### 医用用語標準化ツール

#### ▲Dicapplet Non Maintenance Edition

アイティーコーディネートは、医用用語標準化支援ツール「Dicapplet（ディカプレット）」の新製品「Dicapplet Non Maintenance Edition」を発売した。



「Dicapplet」は、100万語を超える病名・医薬品名・その他の医療関連用語を収録し、標準病名や医薬品名、ICD-10コードをはじめ各種の病名・医薬品コードに対応し、医療現場での専門用語入力や医療関連書類作成時の用語標準化を効率的に支援するもので、通常の辞書データのようにMS-IME辞書として提供されるのではなく、IMEアプレットに組み込む形で提供されているため、普段利用しているユーザ辞書には全く影響を与えることなく、すべてのWindowsアプリケーションで使用することができる。

昨年10月に発売した「Dicapplet Full Maintenance Edition」は、辞書データの更新にインターネット接続環境が必要だったが、医療機関においてはセキュリティを考慮し、インターネット接続環境がないケースがあるため、今回発売した「Dicapplet Non Maintenance Edition」は、インターネット接続環境のない人でも利用できることが特長となっている。

※問い合わせ先=アイティーコーディネート 医用コンテンツ開発部 ☎03・5777・5471